

「病氣も恵みである」

～目的はキリストが共におられることを悟るため～

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしは弱い時にこそ、わたしは強いからである。」コリント人への第一の手紙12章9、10節

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。しかしわたしは、自分たちが見捨てられた者ではないことを、知っていてもらいたい。」13章5、6節

本日は「敬老祝福礼拝」を開催できなくなり、大変残念に思います。皆様も森脇兄にお会いしたいと期待されていたのに、本当に申し訳ありませんでした。

今回初めてコロナに感染し、その辛さを味わいました。また、皆様からの暖かいお言葉をいただきました。森脇夫人からも、お電話をいただき、良いお薬があるので、お送りさせていただきたいとのことでした。

コロナによって、何もかもキャンセルにならざるを得ない状況は本当に悔しいことです。仕事も、回らなければならないところがありましたが、別の方をお願いしなければいけなくなりましたし、村の仕事も、明日一年に一度の「道普請」という作業の日になっていて、それを取り仕切らなければならないのに、前の村世話さんをお願いせざるを得ませんでした。本当にご迷惑ばかりをかけてしまい、敬老の皆様にも、お祝いがきちんとできないことも失礼なことですし、どうか穴埋めをさせていただきたいと願っています。

パウロは大伝道者でしたが、無敵という訳ではありませんでした。実は大きな病を抱えていたと言われています。「弱さ」ということばはそのまま「病氣」と訳すことのできることばです。ちょっとした弱さではなく、立ち上がることができない、自分の人生に支障をきたすほどの弱さのことを語っています。ですから、神様の働きをするにも、その弱さはできればない方がいい。神様の働きがストップしてしまう。と私たちはすぐに考えがちですが、パウロが悟った結論はそうではない。弱さがなければ神様の御業は進まないのだ。病があるために主の働きが前進するのだ！ということです。神様の究極的な御業とは何か？それは、13章に書かれてあるように、私たち一人一人が、主がご一緒であるということを知ることです。何よりもまず、私たちが悟らなければいけないのは、主が私たちと共にいることを悟ることです。「悟る」ということばを大切にしたいと思います。ただ単に「知る」ということでもなく「理解する」ということでもない。身をもって経験することだと思えます。それが、主が私たちに求めておられる最も大切なメッセージではないかと今回教えられました。